

ブラジルの現状と課題 及び 日伯関係の現状

平成28年1月
在ブラジル日本国大使
梅田 邦夫

I ブラジルの現状と課題

1 政治情勢

(1) 第二次ルセーフ政権の現状 (2015年1月～)

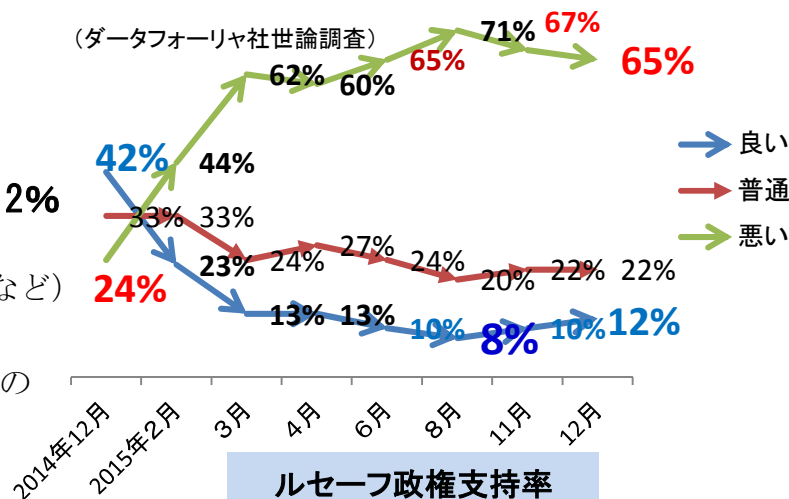
●支持率急落 2014年12月:42% →2015年2月:23%→同12月:12%

【背景・要因】

→選挙公約と政策の乖離 (緊縮財政による電気・バス等の公共料金値上げなど)

→ペトロブラス汚職問題の拡大, 政治の機能不全, 経済の悪化

(参考) 過去13年の労働者党(PT)政権によるバラマキ政策のツケ(財政赤字の急増)に伴う市場の信認低下



(2) 汚職事件捜査 (ラヴァ・ジャット) の進展

●2014年3月, ブラジリアのガソリンスタンドの資金洗浄疑惑捜査から始まり, ブラジル最大企業ペトロブラスを舞台とする史上最大の汚職捜査に発展。

(同社幹部が受注企業から得た賄賂を政界等に広く配布)

●2015年末までに計116名の経済人・元閣僚・議員等が逮捕。
約50名の現職・元議員の捜査が継続中。

参考

- 労働者党(PT)の重責を担ってきた政治家, 元金庫番などが逮捕
(例) ヴァカリ元PT財務局長, ジルセウ元文官長, アマラル上院院内総務逮捕 など
- 企業家等も多数逮捕
(例) ブンライ牧場経営者(ルーラ前大統領親友), エステヴェス投資銀行CEO, マルセロ・オデブレヒト社社長, ピニエイロOAS社社長, アゼヴェド・A・グティエリス社社長, ペソア・C・コヘア社社長 など
ルーラ前大統領の三男(コンサル経営)が家宅搜索, ルーラ自身も連邦警察で事情聴取。
- 捜査対象となっている現職・元議員が約50名超

(例) コロール上院議員(元大統領。8月起訴), カリエイロス上院議長(未起訴であるが, 12月連邦最高裁が, 銀行口座情報開示を命令), クーニャ下院議長(8月起訴, 海外秘密口座等の証拠公表。12月連邦警察が家宅搜索。下院倫理委員会が議員資格剥奪の審議を開始。議長擁護派議員の抵抗で審議が停滞。検事総長は, 職権乱用による捜査妨害として, 議員解任を最高裁に請求。), ワグネル現文官長(2016年1月, 不正資金授受の疑惑捜査開始)

特筆すべき点

- 司法取引(減刑を条件に35名が応じている)
- 海外司法当局との密接な連携(スイス当局から秘密口座に係る証拠提供など)
- 権力者・富裕層が法に則り裁かれ, 刑務所に入っている
- 国民が, 汚職をブラジル最大の問題とみなし, 捜査進展を強く支持。

(3) ルセーフ大統領の弾劾

…12月3日、クーニャ下院議長が弾劾請求を受理

- 12月8日：下院特別委員会設置を一旦議決したが、委員人選で紛糾 →最高裁が手続をいったん中断させ、やり直しを命令
- 弾劾手続再開は、実質カーニバル明けから
- 現時点では、上下両院とも、弾劾成立は困難とみられているが、今後、連立与党内の造反の動きの拡大、国民運動の盛り上がりなどもあり得る



今後の流れを左右する要素

★テメル副大統領の動き

(PTと連立を組む最大勢力伯民主運動党PMDBの党首でもある)
「副大統領として軽視されてきた、大統領の言いなりにはならない」等とするルセーフ大統領宛私信リーク（昨年12月）。

★PMDB内の政府寄り勢力

副大統領派の運動で解任されたピシアーニ下院院内総務は、政府擁護派の盛り返しですぐ復職。PMDB内は、目下、一進一退の争い。

★弾劾を求める国民的運動の動向

92年コロール大統領の弾劾時には、弾劾に慎重な議員も賛成せざるを得ないほど、全国的にコロール反対一色となり、コロール大統領は、弾劾結審前日に自主的に辞任。弾劾賛成派は、全国規模の反ジルマ・デモを、本年3月に計画中。

(参考1) 受理された弾劾請求の内容

- ①大統領が一連のペトロブラス汚職事件を見逃ごしてきた職務怠慢
- ②2014年度財政収支に絡む不正会計処理
- ③2015年度予算でも、黒字目標達成は不可能と知りながら議会の承認なく支出を許可したこと

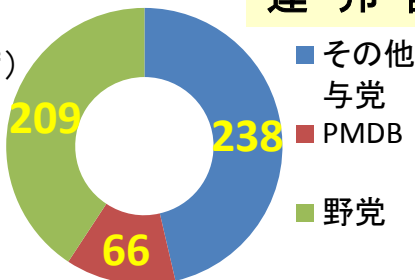
(参考2) 弾劾手続

- ・下院本会議で、特別委員会を設置（記名投票で過半数が必要）
- ・下院特別委員会が上院での弾劾裁判実施を求め、意見書を提示した場合、下院本会議で2/3以上で可決されれば、上院に送られる
- ・上院で過半数以上が弾劾裁判実施に賛成すれば、弾劾法廷（裁判長は、最高裁長官）を設置
- ・公判中、大統領は最大180日間停職、副大統領が職務を代行
- ・上院議員全体の2/3以上の賛成があれば、大統領は失職し、副大統領が昇格

連邦議会勢力図

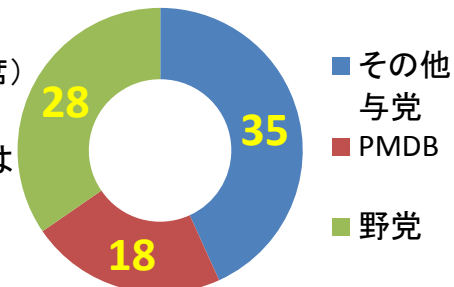
下院 (513議席)

弾劾手続継続
可決には342票
以上が必要



上院 (81議席)

弾劾成立には
54票以上が
必要



(4) 大統領選の選挙無効を訴える訴訟の行方

- ・野党PSDBが提訴
- ・昨年12月4日、TSEが審理開始を公示

- 選挙高等裁判所(TSE)が、2014年10月大統領選のルセーフ陣営で汚職関連の不正資金が使用されていたか審議
- 仮に当選無効の判決が出れば、ルセーフ大統領・テメル副大統領の当選は取消し（選挙やり直し、又は、決選投票を争ったネーヴェス上院議員陣営の当選言い渡し）

2 経済情勢

(12/31 中銀週次報告予測値)

● **続くマイナス成長**: 2014年(0.1%) → 2015年(▼3.7%) → 2016年(▼3.0%)

【要因】中国の景気減速、一時産品価格下落、財政赤字急増に伴う市場の信用低下

● **第二次ルセーフ政権発足後、市場の信用回復を目指し財政調整政策実現を目指す**が、議会の協力を得られず、所期の成果を達成できず → 格付け機関(S&P, フィッチ)は、**ブラジル国債を投資不適格に格下げ**

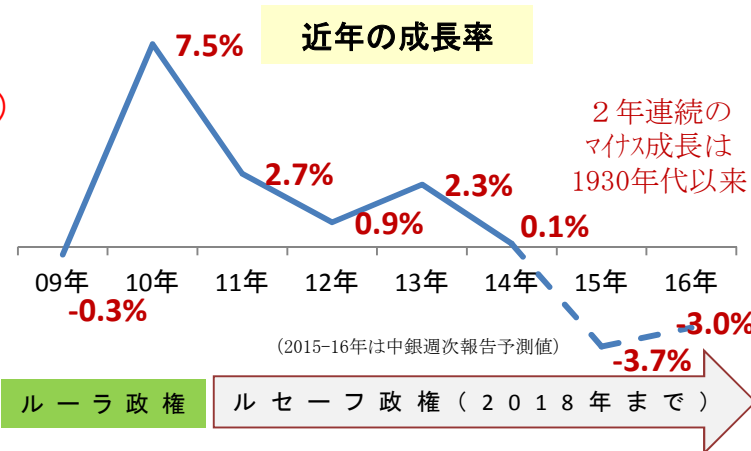
● **2015年12月: 財政調整政策の旗印であったレヴィ財務大臣辞任**。
バルボーザ新大臣は、**財政健全化路線は不変とする**が、効果的な政策を実施できるか、市場は依然懐疑的。ペトロbras汚職関連での議会の機能不全に加え、地方選挙を控えた与党内からの支出拡大圧力あり。

● **経済成長回復のためには、ペトロbras汚職の早期解明、政治の安定が不可欠**。中期的には、競争力・生産性向上のための**構造改革**(税, 社会保障, 労働法制等)が不可欠。

・インフレ率上昇(2014年: 6.41% → 2015年: **10.67%**) = 過去13年間で最高

・失業率悪化(2014年8~10月移動平均: 6.6% → 2015年8~10月: **9.1%**)

・レアル安進行(2015年1月: 2.7レアル/ドル → 1月6日: **4.0レアル/ドル**) = 市場最安値に近い



3 外交

- **近年、BRICS(特に中露)との関係がとみに緊密化していたが、中国の経済減速、一次産品価格低迷、伯の経済不況を受け、第二次ルセーフ政権になって、伝統的友好国(米・EU・日本)との関係強化にも尽力**
- **マクリ・アルゼンチン新大統領(12月10日就任、中道右派)、ベネズエラ総選挙(12月6日に反チャベス勢力が勝利)による変化が、メルコスールをはじめ地域の政治・経済にどのように影響するか**

(参考)

- ・ **中国**: ブラジルにとり 09年以降最大の貿易相手(鉄鉱石・大豆等の対中輸出が、2013年まで約10年間伯成長の大きな要因)中国にとっても、**伯の資源・食料は不可欠**。一昨年以降、中国は、**投資・市場としてもブラジルを重視**。また、南米一の大国としての**政治的利用価値に着目**(2014年7月以降、中国政府のナンバー1~4までが訪伯)
- ・ **ロシア**: ウクライナ問題などに起因し、欧米日の制裁を受ける中、ブラジルが対露食料輸出を増大。
- ・ **米国・EU**: 2013年9月の米によるルセーフ大統領盗聴発覚以降、関係は冷え込んでいたが、**2015年6月、ルセーフ大統領が訪米し、関係は正常化**。
更に2015年は、メルケル独首相の訪伯(8月)、ルセーフ大統領の訪伊(7月)、スウェーデン、フィンランド訪問(10月)など → 12月21日メルコスール首脳会議は、**域外との野心的・包括的貿易自由化、EUとのFTA交渉への積極的姿勢を明確化**

4 2016年リオ・オリンピック・パラリンピック大会

(8月5日～21日)

(9月7日～18日)

1 大会の準備状況

●競技施設：多くが工事中だが、開幕までには完成

→リオ組織委の公式見解は、施設は順調に進んでいるとの立場

→ただし、バス専用線等の交通インフラは一部間に合わないのではないかと、多くの人心配

- ・関係報道は増えているが、ブラジル国内での盛り上がりは今一つ
- ・5月3日から国内の聖火リレー(100日前から、全州、約1万2千名が参加)

2 日本政府の3つの業務

●選手団・邦人来訪者の安全確保

→テロや、強盗などの一般犯罪

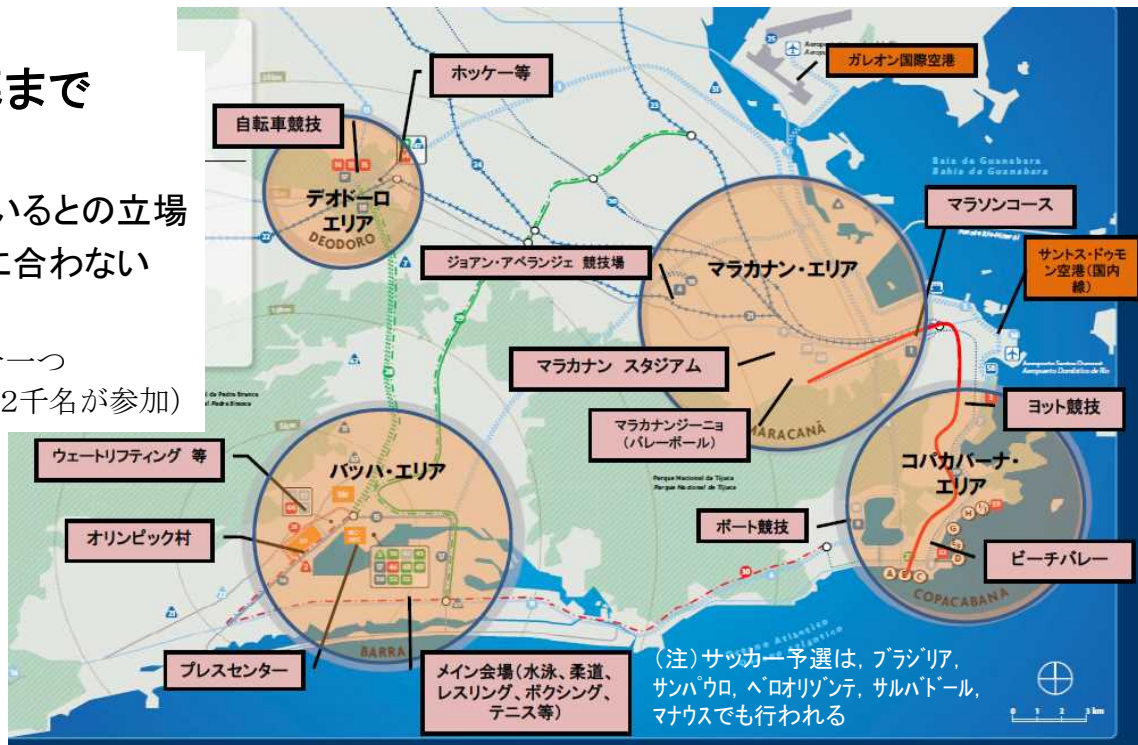
→感染症対策(デング熱、ジカ熱、黄熱病予防接種)

●要人来訪対応

東京都知事、森組織委員会会長、文科大臣。皇族、安倍総理来訪もあり得る。

●日本選手団のサポート応援

→選手が実力を発揮できる環境作り



3 日伯スポーツ交流の強化

●リオから東京へ

「スポーツ・フォー・トゥモロー」のプログラムとして推進。

●柔道・空手・剣道等を通じた青少年育成及び交流強化

用具の寄付、コーチ派遣を通じ、特に貧しい地区の青少年の育成に協力。

そのほかにも、野球、卓球、ソフトボール、バドミントンなどでコーチ派遣。

「オリンピック・パラリンピック連絡協議会」を立ち上げ予定(3月)
大使館・リオ総領事館で現地対策本部を設置予定(1~2か月前目途)

【 民主主義の基盤は健在 】

- 伯は、政治・経済両面で危機的状况に直面するも、司法の独立、報道の自由等、民主主義の根幹は堅固であり、民主主義は機能している
- 汚職の少ない公正で透明性の高い社会の構築に向け、「歴史的変革期」を迎えているとも言える

【 潜在力と市場の大きさは不変 】

- 人口・国土：世界第5位。世界最大の食料純輸出国。
(耕地面積約7670万ha, 森林保全をしつつ可能な潜在的面積は2億haとも)
- GDP世界第7位(アセアン10か国の合計とほぼ同規模)。国内消費市場世界第7位(米、中、日、独、英、仏、伯の順)。鉄道等大きなインフラ需要。
- 世界の淡水の1/5, 世界の熱帯雨林の1/3を保有。

Ⅱ．日伯関係の現状

1 2015年：日本ブラジル外交関係樹立120周年

●実施体制及び主な記念事業

- ・ 全国レベル実行委員会に加え、6都市(州)(ポルトアレグレ、クリチバ、リオ、マナウス、ブラジリア、ベレン)地方実行委員会創設。3州において知事が名誉委員長。
各地の実行委員会が音頭を取り、記念事業を推進。実行委員会は“オールジャパン・イン・ブラジル”の体制(日本政府・機関、商工会、日系諸団体の代表)。
- ・ ブラジル国内で一年を通じ約450の記念事業実施。数百万人のブラジル人参加。
- ・ 寄付を得て実施できた事業。
ブラジル実行委員会特別事業(日本館改修、花火祭り、日伯共同プロジェクト特別展示)。
リオ実行委員会特別事業(日本庭園改修、日伯友好コンサート)。
- ・ 州政府・州知事主催の多くの行事。
- ・ 連邦議会・地方議会主催の多くの行事。

●秋篠宮同妃両殿下のブラジル訪問(10月28日－11月8日)

12日間で6州9都市御訪問(サンパウロ、パラナ、マツグロツソ・ド・スル、パラナ、ブラジリア、リオ)。
伯側最高の受け入れ態勢(大統領表敬、伯政府主催午餐会、連邦下院主催式典、州知事御引見等)
日系社会との連携強化、ブラジル社会における対日親近感醸成。

●11州の知事との会談(公式訪問)(多くの場合、商工会及び企業の代表も参加)

- ・ 目的:(ア)日系社会への配慮に謝意表明、(イ)皇族ご訪伯時の協力要請、(ウ)交番プロジェクト普及や中等教育での日本語学習導入の要請、(エ)日本企業紹介、人的関係構築の契機。
- ・ 日系社会との連携強化(日系団体代表及び日本語教育関係者と懇談)。

2 ルセーフ大統領の訪日延期(11月27日伯側より通報)

● 見込まれていた訪日の意義・成果

- ・120周年のフィナーレを飾る行事(両陛下, 安倍総理, 関係大臣, 経済界リーダー)。大統領には数名の閣僚と約50名の伯企業関係者が同行予定。
- ・10年ぶりの現役伯大統領の訪日。
- ・安倍総理訪伯(2014年)時に合意された「戦略的グローバル関係に関する共同声明」の具現化。広範な分野での関係強化。

● 大統領訪日を念頭に大臣・高官との会談

アブレウ農業大臣, モンテイロ開発商工大臣, ブラガ鉱業エネルギー大臣, ヴィエイラ外務大臣, ヒルトン・スポーツ大臣, ワグネル国防大臣(当時)等。

● ダメージ・コントロール

- ・二回目の延期。如何にダメージ(ブラジルのイメージ悪化、対ブラジル不信感等)を最少化するか。
- ・訪日は、状況を観つつ再調整。首脳レベルの相互訪問は、二国間関係を前進させる最高の機会。

● 首脳会談の成果として準備していた事項のうち、早期実施が望まれるものについては、順次個別に公表・実施

- ・伯産加工牛肉の輸入解禁, 和牛輸入解禁(12月4日)
- ・JBIC案件(BNDESとの間で地球環境保全に関するクレジットライン:約1億米ドル)設定(12月4日)
- ・JOIN案件(三井物産・JR西日本等とのブラジル都市鉄道事業共同出資:約56億円)(12月9日)
- ・リオ五輪に向けた査証免除(日, 米, 加, 豪のみ)(12月30日発表)
- ・受刑者移送条約発効のための公文の交換(1月15日交換済み→2月14日に発効予定)
- ・スポーツ交流強化, 農業分野での協力, 「国境なき科学」における日本語学習推進, 一般旅券所持者への短期数次査証発給 等

3 2016年大使館・総領事館の主要課題

- ブラジルの政治・経済情勢，対外関係の把握
- 要人の往来実現（両国首脳，閣僚，議員等）と日伯関係強化
- リオ・オリンピック・パラリンピック関連業務
 - ・安全対策、要人受け入れ、応援。そのための体制づくり。
- 日本企業支援
 - ・「伯における日本企業の更なる投資実現に向けた行動計画」(AGIR)の提案内容の働きかけ，農業・都市インフラ，食料・食品，造船，医療保健分野等。
 - ・JICA, JETRO, JBIC, NEXI, JOIN, 各地の商工会との連携強化。
- 日系社会との連携強化
 - ・招へいプログラムや日系研修の充実，日系ボランティアの倍増，日本祭り・日系病院・日本語教育・日本食普及への支援，移住110周年(2018年)等。
 - ・各地の日系団体，JICA，基金，日系新聞との連携強化。
- 効果的な対外発信
 - ・サンパウロのジャパン・ハウス，リオのジャパン・ハウス(オリンピック・パラリンピック期間中)，ホームページ，フェイスブックの充実，伯メディア・日系新聞の活用等。

2016年の主要スケジュール(予定)

1月28日	CELA C首脳会談 (@エクアドル)
2月 2日	日伯政治対話 (東京)
2月23日	日伯貿易投資促進・産業協力合同委員会中間会合 (@ブラジリア)
2月下旬	陸上幕僚長の訪伯
2月29日	日伯農業・食料対話 (~3月1日, @トカンチンス州パルマス)
3月31日	核セキュリティサミット (~4月1日, @ワシントン)
4月頃	日伯領事当局間協議 (@東京)
4月 5日	日伯戦略的パートナーシップ賢人会議 (~6日, @東京)
5月26日	伊勢・志摩サミット (~27日)
7月25日	参議院議員任期満了
8月 5日	リオ・オリンピック (~21日)
9月 4日	G20首脳会議 (~5日, @杭州)
9月 7日	リオ・パラリンピック (~18日)
9月下旬	国連総会
10月 2日	ブラジル統一市町村選挙第1回投票日
10月30日	ブラジル統一市町村選挙第2回投票日 (決選投票となった場合)
11月19日	APEC首脳会議 (~20日, @ペルー)